

第10回ふるさとの森づくり専門家研修

(2018年7月6～8日、横浜市中区、湘南国際村)

鈴木邦雄横浜国立大学名誉教授ら9人の講師による座学の9講座を6日と8日に横浜情報文化センター会議室で行い、現場実習3講座を横須賀市湘南国際村めぐりの森植栽地で実施した。今回の受講者は3人。ほかに植生工学士を対象に希望講座が再受講できる特別企画に1人が参加した。現場実習は特別会員2人と事務局メンバーを合わせて11人で実施。終了後は懇親会でフィールドワークの疲れを癒し、労い合った。
(写真は、2日目の現場実習の様子)



他団体の森林再生関連事業に参加

★仙台市荒浜植樹会 (レナフォ協力)

(2018年6月2日 仙台市荒浜字南官林 海岸防災林)

レナフォ協力団体の一社・森の防潮堤協会と仙台ふるさとの森再生プロジェクト連絡会議が主催。地元企業関係者のほか東北大学の留学生ら430人が参加。仙台市が主導したAエリアで抵抗性クロマツ2,200本を、同協会主導のBエリアで広葉樹4,800本を混植した。「木霊宿る陸の島」という新趣向の設計コンセプトで植栽地を大中小の円形山状に点在させた=写真⑥。レナフォから高野理事長と植生工学士7人、特別会員らがBエリアで事前の準備工や留学生の植樹指導で協力した=写真⑦。



レナフォからお知らせ

★参加者募集中です ～第11回ふるさとの森づくり専門家研修

▽日程・場所：2019年7月13日、15日 横浜情報文化センター会議室(予定)
7月14日 神奈川県横須賀市湘南国際村
▽参加費：55,000円(14日の懇親会費は別) ▽再受講費：1講座1000円(植生工学士限定)
▽予定人数：20人 ▽講座数：12講座(詳細はレナフォ・ホームページ参照)

★ふるさとの森づくりに関わるイベント情報を随時配信しています

▽「森づくりマイスターマガジン」～2016年10月から第41号までメール配信しています。これまでの主な配信内容は、国内外の植樹祭や育樹イベント、森の調査会、専門家研修、環境フォーラム、宮脇先生のTV特番案内など。森づくりマイスターマガジンの登録はレナフォHP(ホームページ)の登録フォームより。無料。
▽「森づくりマイスターカレンダー」～レナフォHP内で発信。

★動画集をご覧ください

今年新たに動画「高尾小仏植樹祭2018」を制作しました。レナフォHPにてご覧いただけます。

★情報提供をお待ちします

「ふるさとの森」づくりに関わるイベント情報～一般市民参加の植樹祭やシンポジウムなどの情報をご存じの方はご一報ください。マガジンとカレンダーで紹介させていただきます。

★「ふるさとの森」づくりの仲間たち「会員」募集中です

レナフォの活動は企業や諸団体の助成金と会員の皆様の年会費を資金源にしています。詳細はホームページをご覧ください。会員登録もホームページからどうぞ。
年会費は、個人正会員6,000円 同賛助会員3,000円 団体正会員100,000円 同賛助会員50,000円

(編集制作：恩田 重男)

NPO法人 国際ふるさとの森づくり協会 (ReNaFo)

東京事務所 〒154-0023 東京都世田谷区若林5-21-1 TEL:03-3422-2765 FAX:03-6805-2794
長野事務所 〒389-1223 長野県上水内郡飯綱町柚之山497-4 TEL:026-253-4740 FAX:026-219-1203

Re Na Fo

レナフォだより 第16号

(2018年11月)

〒154-0023 東京都世田谷区若林5-21-1
NPO法人 国際ふるさとの森づくり協会

森に住むもの

レナフォは設立から10年が経過しました。去る10月20日、ヨコハマ創造都市センターで「創立十周年記念講演会」が開かれ、安田喜憲先生(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)に基調講演をいただきました。先生は古代の花粉を分析してその時代、その場所ではどんな植生が繁茂していたかを調査研究してこられた方です。

調査により、古代地中海沿岸やメソポタミアには数千年経過したレバノンスギ(マツの一種)の巨木が繁茂した森林が広がっていたことが判りました。ギリシャ・ローマ等の都市文明はこの木々を伐採して宮殿・船・住宅・王の棺や青銅器・鉄器・陶器製造の燃料に使い、森林を消滅させ、更なる材木を求めて戦争を繰り返した結果、疲弊し滅亡したと話されました。表土が流出し、白い石灰岩がむき出しになり、明治以後日本人が西洋文明発祥の美景と崇めて来た地中海には魚は住まず、澄んだ不毛の海水が広がっています。その後も西洋文明は自然を人間の下位に置く一神教を世界に広げ、自然破壊を続けた結果、今日の地球環境問題が起こり、人類自らの生存危機を招いたと話されました。

先生は今こそ日本人の伝統的感覚、——あらゆるものに神が宿り、自然を畏れ敬う姿勢——、これこそが人類を救う道だと説かれました。森には悪魔が住む西欧感覚から神々が宿る日本感覚への転換を促し、自然の再生努力こそがこれから重要だと熱っぽく語られました。

妖怪漫画家水木しげるが子供の頃大好きだったのは恐ろしいもののけの話の話を聞かせてくれた老女「のんのんばあ」だったと聞きます。彼女の語るもののけは悪いことをすると出てきて懲らしめるが、さもなければ姿を現さない、どこかでいつも自分を見てくれる戒めの神です。今の子供達もみなお化けごっこ、暗いところに住む怖いもの、が大好きです。町の中にもちょっと暗くて怖そうな所が必要ではないでしょうか。「塾だ」「成績だ」「習い事だ」と毎日攻め立てられる子供達のためにも、せつなく大きく育ちつつある木立を防犯上見通し良くするためと称して切り落したりしないほしい。

今年のハロウィーンでは渋谷の明るい雑踏の中で多くの逮捕者が出たと報じられました。明るいと、人目のあるところ、見通しの良いところでは犯罪は起こらないというのは必ずしも当たっていないのではないのでしょうか。ハロウィーンでの仮装の多くが気味の悪い悪魔や妖怪ということに、若者達の心根がうかがえる気がします。

レナフォも次の10年に向かって多様性に満ちた自然の森を再生することに、地道に、愚直に歩いて行きましょう。たくさんの動物や神様に住んでいただけるように。(写真は植栽から30年後の鳥取新都市)

(高野 義武)

